

自然災害と感染症に備える

水害などの自然災害が発生した際に開設する避難所では、3つの密（密閉・密集・密接）が起こりやすく、現在流行している新型コロナウイルスをはじめとする感染症の拡大が心配となります。

今回は、災害時の心構えや避難所での感染症に備えるためのポイントを紹介します。

日頃の備えが命を守る

台風などによる風水害は、気象や河川の情報などにより、洪水や土砂災害の危険性について、事前に把握することができ、事前把握することができ、事前に確認し、早い段階で適切に避難することによって、自身や家族の身を守るにつながります。

逃げ遅れゼロへ！

日頃からのタイミングでどのように避難するかを決めておくことが重要です。

現在、避難判断の基準となる警戒レベルは5段階に分かれ、それぞれの段階で皆さんが取るべき行動が示されています。

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動を心掛けましょう。

感染症対策を踏まえた避難時のポイント

○避難とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。自宅の安全が確保できている場合は、自宅に留まる在宅避難も避難行動の一つです。

- 避難所以外にも、安全に避難できる場所があるか、家族や親戚、友人と話し合いましょう。
- マスク・消毒液・体温計・スリッパなどは、できるだけ自身で持参してください。

○ハザードマップなどにより、避難所や自宅の周辺にどのような危険があるか、確認しておきましょう。

○豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむを得ず車中泊をする場合は、浸水しないよう周囲の状況などを十分確認してください。

日頃から備蓄すべきもの

- 3日分の水や食料
- ラジオ・懐中電灯
- 携帯電話
- アルコール消毒液
- 体温計・マスク
- ウェットティッシュ
- 石けん・常備薬
- ゴミ袋など

問 伊奈庁舎防災課 ☎58・2111（内線2502）

名称：警戒レベル
発信者：市区町村等
内容：避難情報

名称：警戒レベル相当情報
発信者：気象庁や都道府県等
内容：河川水位や雨の情報

警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
			浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5	命を守る最善の行動	災害発生情報	5相当	大雨特別警報(土砂災害)
4	危険な場所から全員避難	避難勧告(避難指示(緊急))	4相当	土砂災害警戒情報
3	危険な場所から高齢者などは避難	避難準備・高齢者等避難開始	3相当	大雨警報
2	ハザードマップ等で避難方法を確認	大雨注意報 洪水注意報	2相当	—
1	最新情報に注意	早期注意情報	1相当	—